

フィールドレター20160801 安藤

「Dr. Tenzin Wangchuk (Dean of Academic Affairs, Sherubtse College)」の合流と GNH アプローチ」

安藤和雄

7月28日（木曜日）の午後にパレスサイドホテルに、テンジンさんが到着され、先に来日していた他の4名のシェラブツェ大学の一員に合流しました。7月29日朝に東南ア研の河野所長に表敬、午後に宮津市役所での副所長他関係者にシェラブツェ大学の4名の民さんとともに表敬し、「一まち一キャンパス事業」でのシェラブツェ大学の教員、学生の受け入れへの協力の感謝を述べ、先に来日し、すでに5日間の宮津市世屋地区における RRA（速成農村調査）を実施したシェラブツェ大学の教員、学生からみた世屋地区の状況や、ブータンの農村文化について意見交換がなされました。はじめて訪れるアジアの開発途上国の人々が共通にもつ感想ですが、電気、水道、ガス（プロパンですが）が完備し、いまではインターネットも都会とかわることなく使え、道路の舗装もゆきとどいている「過疎村」



写真1 宮津市役所表敬

からなぜ人がでていってしまっているのか、という単純な疑問です。社会インフラの整備状況からすれば世屋地区はブータンの都会と変わらないというのが、いつもながらのブータンから日本をはじめて訪れた人の感想です。宮津市は「一まち一キャンパス

事業」で京都府が150万円を援助するのに合わせて150万円の援助を計画してくれています。私は表敬の懇談会の席で宮津市役所職員にぜひブータンの過疎や農業離れの現状をこの事業を利用して視察してもらいたいという希望を述べました。過疎や農業離れの問題が日本において置き去りにされ都会に住む人々にとっては自分の問題として捉える当事者意識が少ないのがこの問題の特徴で、この壁を打ち破っていくためには、過疎や農業離れの問題が地球温暖化のCO2排出問題や森林減少問題と同じくグローバル・イシューであることが広く世間で認められることが重要だと思い始めたのです。宮津市の職員が実際に現地で過疎や農業離れの問題に触れることができることは大変大きな一歩になることでしょう。困難なことは承知していますが、ぜひ、ブータンへの宮津市役所の職員の招聘を実現させたいです。

7月30日は午前中宮津市天橋立ユースホステルで、来日中のシェラブツェ大学歴史学科の学科長で、歴史研究センターの所長でもあるソムゲさんと一緒にブータンの英字新聞投

稿用の宮津市での見聞に関する記事をつくっていました。今回の科研や「一まち一キャンパス事業」の統一テーマは、過疎と農業離れの問題をグローバル・イシューにしていこうとすることで、国内外での新聞等々への発表を積極的に行っていきます。そして、午後は美山町知井地区の旧知井小学校に移動しました。今年の3月で140年の歴史に幕を閉じました。4



月からは旧美山町の5つあった小学校は、一つに統合され、宮島の宮島小学校の校舎を利用して美山小学校となりました。知井小学校の建物は知井振興会が中心となって、研修施設として利用しています。知井地区では、知見

の水田に植えられた杉林をまず見学しました。この杉林は40～50年前に、挙家離村の村人たちは「貯金」としえ植えたものです。31日の朝は夏休みの特別コースで1泊2日の山村

#### 写真2 北集落 晋明寺にて

留学の8名の子供たちが行った川での鮎とりに参加、午後からは、かやぶきの里である北集落を散策し、集落のもっとも上部に位置する禅寺の晋明寺を訪問しました。この日は幸い、おくりさん（禅寺の住職の奥さんの呼び方）がお寺におられ、本尊の「たち観音」を拝むことができ、抹茶と栃羊羹を楽しむことができました。観音菩薩はブータンでも人気があり、お寺の本尊として祀られていることが多いです。観音菩薩の私に聞こえるブータン名はチェンデンジーです。そして、知井小学校の旧校舎の一室で、知井振興会の事務局長の河野賢司さんから知井振興会の地域での活動に関する講義を、食事を挟んで3時間以上聞きました。8月1日の午前中は、夏休みであることもあり、地元の小学生が宿舎に遊びに来て、交流会をもち、9:00から1時間ほど、かやぶきの里北集落の民俗資料館を見学し、お昼頃に京都大学清風会館に戻りました。

現在、ブータンでは、GNHアプローチについて、内部からもかなり議論がわかいあがっています。それは、理念優先で、実際の方策や事業の展開に乏しいということがもっとも大きな原因のようです。私もそう感じている一人です。今回の宮津と美山でのRRAでもそのことが再三話題にあがりました。しかし、知井地区での振興会の様々な活動や民俗資料館を知ることにより、私はブータンの皆さんに「これらの事業こそがGNHのアプローチの事業となるのではないかと」と問うと、皆さん、目を輝かせて、賛同してくれました。そして、その導入を試みる必要があるとも盛り上がったのです。私は日本の農村開発や地域振興の主要なアプローチは経済から文化や歴史、伝統、環境にすでにシフトしています。それはGNH

でかかげあれている柱でもあります。ブータンはせつかく国として GNP から GNH と世界に誇れる新しい国家開発理念を全面に打ち出したのですから、ぜひ、頑張ってもらいたいのです。今回のシェラブチェ大学からの教員 3 名の方々は興味の幅も広く、彼らとの会話から、私も GNH のアプローチの実験は、実は日本の農村にすでに存在しているということを気づかされた RRA によるフィールド・ワークだったのです。



写真 3 北集落茅葺の葺き替え